

看護学部看護学科	職名	教授	氏名	松浦賢長
----------	----	----	----	------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

母子保健学者，思春期保健学者，性教育学者。保健学博士（東京大学）

東京大学を卒業後，同大学院に進学し，東京大学医学系研究科博士課程を修了（保健学博士）。日本総合愛育研究所母子保健研究部に研究員として勤務後，カリフォルニア大学バークレー校公衆衛生学部母子保健学教室に研究助手として勤務。帰国後，京都教育大学教育学部にて衛生学（学部）および学校保健学（大学院）を担当する助教授として教員養成に 10 年間携わる。再度，カリフォルニア大学バークレー校公衆衛生学部人口・家族計画学教室（マルコム・ポッツ教授）に助手として勤務し，平成 15 年度から本学看護学部開設と同時に地域看護学講座教授として着任した。その後，学部改組によりヘルスプロモーション看護学系学校保健領域（養護教諭養成課程を含む）教授を経て，看護学部教授。また，本学の附属図書館長を平成 20 年度から 21 年度まで兼務。平成 22 年度～23 年度には，本学の 4 つのセンターを有する附属研究所長を兼務。平成 24 年度，不登校・ひきこもりサポートセンター長。平成 25 年度から，教員兼務理事を務める。

母子保健学：全国学会レベルでは，日本小児保健学会が 10 年に一度行う幼児健康度調査（令和 3 年度）の委員長を務めた。国レベルでは，わが国の母子保健（健やか親子 21）については，第 1 回中間評価時（2005 年），第 2 回中間評価時（2009 年），最終評価時（2014 年）に評価研究メンバーとして九州から只一人参画し，健やか親子 21（第 2 次）策定に係った。また，長年にわたり厚生労働科学研究（山縣然太郎班）のメンバーとして政策研究を遂行してきている。わが国の産後うつ病の頻度の把握をはじめとして，研究成果が厚生労働行政政策に反映されている。また，わが国の乳幼児健診の標準化についてグランドデザインから関わり（山崎嘉久班），わが国で初めての全国標準問診項目の開発を担当した。現在は，成育医療基本法に基づく成育医療等基本方針の指標モニタリング研究に関わっている（山縣班）。また，思春期健診に向けた研究班に従事している（永光班）。県レベルにおいては，福岡県の乳幼児健診マニュアルの開発委員長を務めた。現在は，福岡県教育委員，福岡県性暴力対策会議座長，福岡市こども子育て審議会委員長，北九州市思春期保健連絡会会長などを拝命している。平成 25 年度（12 月 1 日）には，第 26 回日本保健福祉学会学術集会を主催。本学を保健福祉学の拠点とするべく業績を発信中である。平成 30 年度健やか親子 21 全国大会(津市)にて，厚生労働大臣表彰を受けた。

思春期学：学会レベルでは，日本思春期学会（会員数約 2,000 名）の理事長および性の健康医学財団の幹事を務める傍ら，九州思春期研究会の会長として，山積する思春期の課題に取り組んでいる。国レベルでは，健やか親子 21 の指標の見直しを担当し，厚生労働省と文部科学省の協力のもと，慎重な性行動を予測する指標の開発を行い，国の施策に反映させた。また，思春期やせ症予防のためのマニュアル（全国版）を開発・出版した。日本版 **Bright Futures** 作成を目標とする研究班に分担研究者として従事した（岡班、永光班）。また，平成 20 年度からは文部科学省「質の高い大学教育推進プログラム（教育 GP）」に不登校の子どもたちへの援助力を養成するためのプログラムが採択され，推進責任者としてプログラムを実行した（～平成 22 年度）。県レベルでは，福岡県エイズ・性感染症対策委員を拝命し，また，北九州市の性感染症対策のための大規模調査（2007 年）、久留米市の思春期問題調査（2014 年）を担当した。平成 23 年度（8 月 26 日～28 日）には，第 30 回日本思春期学会

学術集会を主催した。

性教育学：学会レベルでは、いまだ学問として発展途上にあることから、性教育学を確立するべく、全国の若手研究者とともに性教育学構築フォーラムを主催し、わが国で初めてとなる性教育学の書籍を出版した。また、日本思春期学会（現在、理事長）の性教育認定講師養成プログラムの委員長を務めている。国レベルでは、カプラン・マイヤー法を初めて用いた日本人の性行動の分析をおこない、厚生労働省人口問題研究所等から評価を受けた。また、新しい学校性教育のスタイルである「カフェテリア方式」を開発し、全国に導入されている。現在は全国の若手研究者とともに「思いやり」と「共感」の違いに着目しつつ、脳科学・進化心理学の成果を利用し、性教育学モデルを組み立てている。県レベルでは、福岡県教育委員会の性教育関連事業の委員長等を務めている。現在は特別支援学校の性教育（性暴力被害防止教育）に取り組む。2026年11月には日本学校保健学会学術大会を福岡市にて主宰する。

## 2. 研究業績

### ① 最近の著書・論文

- ・ Shin T., Matsuura K.: A perspective on the declining birthrate in Japan. *J Kyushu Society of Adolescentology*, 1: 22-26, 2024.
- ・ 安藤朗子, 原田直樹, 近藤洋子, 加藤則子, 堤ちはる, 阿部百合子, 大屋晴子, 松浦賢長. 乳幼児の発達とそれに関連する社会的要因の検討. *日本児童学会：児童研究 VOL.102* 14-23, 2023.
- ・ 松浦賢長. 思春期学を学問とするために. *思春期学*, 2023 ; VOL.41 NO1:73-74

## 3. 外部研究資金

- ・ こども家庭行政推進調査事業費補助金 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業「成育医療等基本方針に基づいた指標・施策の中間評価、およびモニタリングに関する研究」班：30万円、（主任研究者：国立成育医療研究センター 山縣然太郎）. 分担研究者.
- ・ こども家庭科学研究費補助金 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業「こどもの健やかな成長・発達のためのバイオサイコソシヤルの観点（身体的・精神的・社会的な観点からの切れ目のない支援の推進のための研究」班：50万円、（主任研究者：福岡大学永光信一郎教授）. 分担研究者.
- ・ 福岡県教育委員会不登校児童生徒等の早期発見・早期支援事業教育支援センターの総合的拠点機能形成に向けた調査研究事業：筑前町・小竹町・糸田町・福智町. 1,000万円. 責任者.

## 5. 所属学会

日本思春期学会（理事長）、日本学校保健学会（九州沖縄地区代表理事）、日本保健福祉学会（理事）、日本健康学会、日本看護科学学会、日本災害看護学会、日本公衆衛生学会、日本小児保健協会（幼児健康度調査委員長 R6 まで）、日本母性衛生学会、日本健康教育学会、日本民族衛生学会、日本性感染症学会、日本性科学会、九州学校保健学会（評議員）、東海学校保健学会、九州思春期研究会

## 6. 担当授業科目

<学部>

公衆衛生学、保健統計学、学校保健学、性教育学、教育方法論、健康教育論、養護実習（教育実習）、養護実習事前事後指導、教職実践演習、不登校ひきこもり援助論、子供学習支援論、教育と社会・地

域，看護倫理学

<大学院>

看護研究法，ヘルスプロモーション科学，ヘルスプロモーション看護学特別研究，思春期ヘルスプロモーション特論／同演習

